

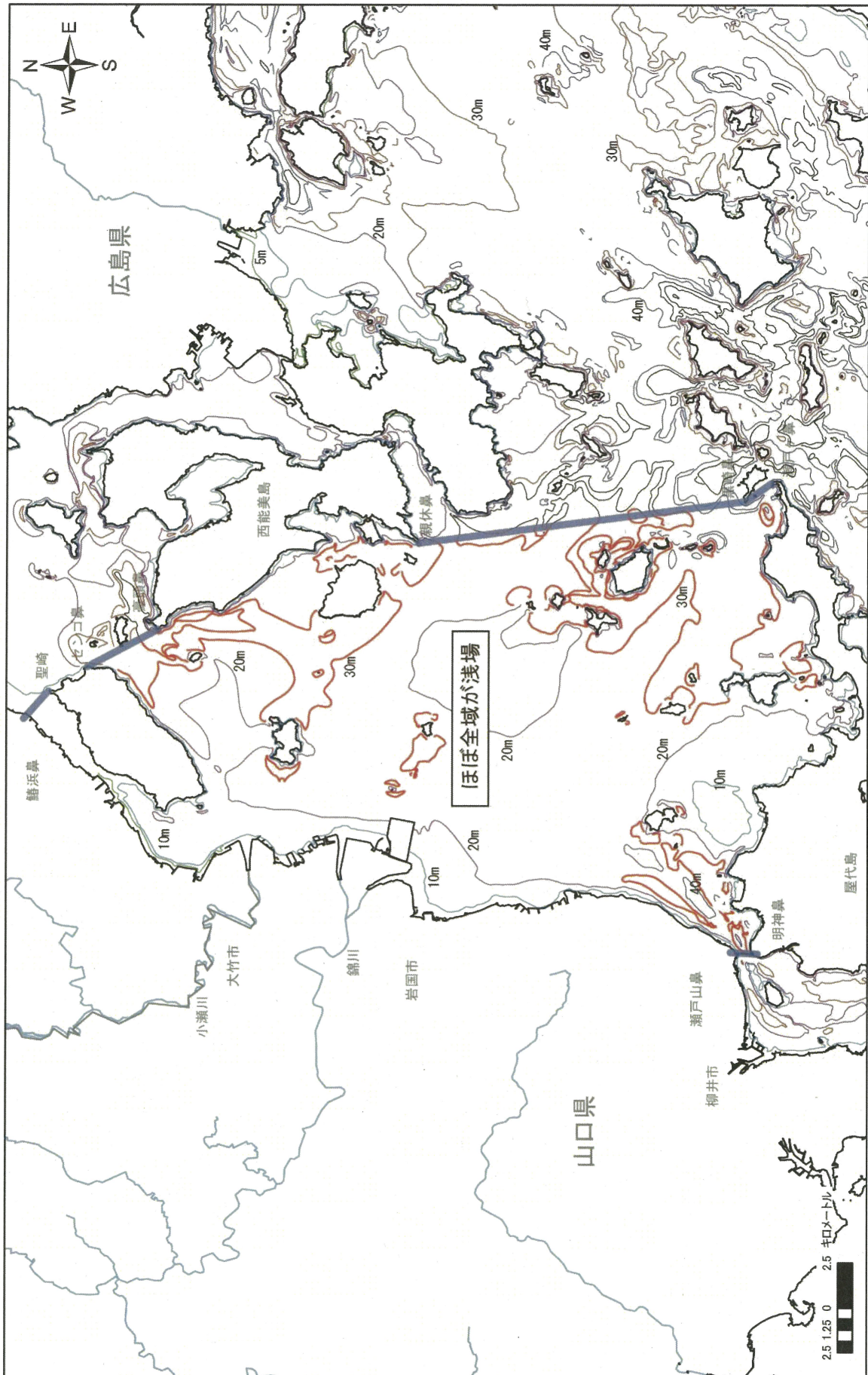
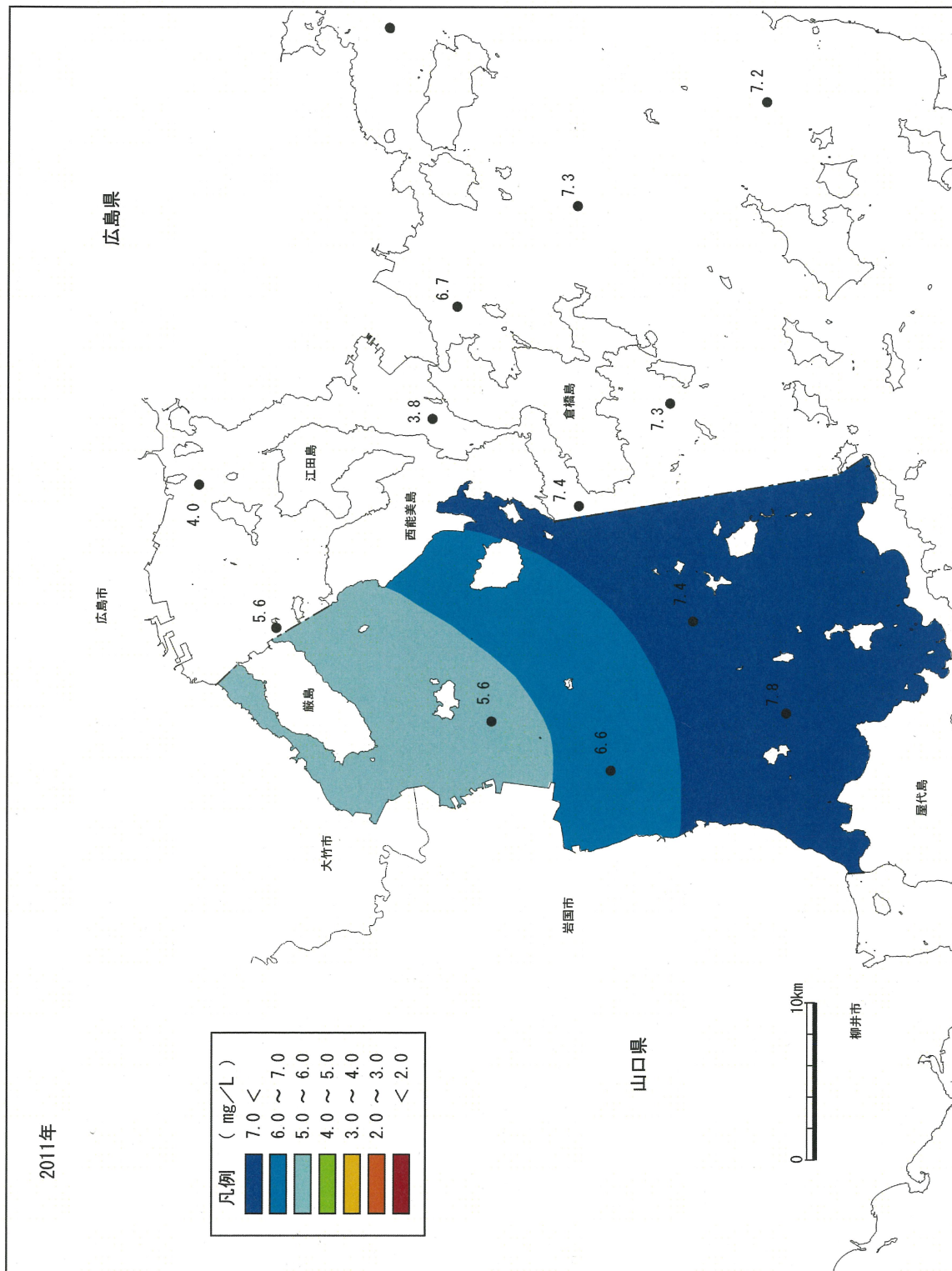


図 2.7 主な浅場



注1) 平成20～25年の夏季底層DOのうち、DO濃度分布が最も悪化した平成23年を掲載した。

注2) 測定位置：海底直上1m 出典：環境省広域総合水質調査結果

図2.8 夏季底層DOの分布状況(平成23年)

表 2.4 主要魚介類の選定結果

①瀬戸内海における主な魚介類		②周年定住種	③漁獲量上位種	④保護水面対象種	⑤産卵場・生育場が藻場・干潟等特定域に該当する種	⑥選定結果	選定理由
魚類	イカナゴ	○		保護水面あり(対象種:水産動植物)			
	コノシロ	○	○				
	マコガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	イシガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	メイタガレイ	○	○				
	ヒラメ	○			○		
	タマガンゾウビラメ						
	イヌノシタ						
	クロダイ	○	○				
	マダイ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
	ヘダイ		○				
	イボダイ	○					
	スズキ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
	アカカマス		○				
	イサキ		○				
	シイラ		○				
	ニベ	○	○				
	シログチ	○	○				
	ベラ	○					
	カサゴ	○			○		
	メバル	○			○		
	アイナメ	○					
	トカゲエソ	○					
	マエソ						
	サワラ	○					
	マナガツオ						
	カタクチイワシ(シラス)		○				
	タチウオ		○				
	マサバ		○				
	マアジ		○				
	マルアジ						
	ブリ		○				
	マイワシ		○				
	ハモ						
	マアナゴ		○				
	ウナギ						
	ボラ						
	カワハギ						
	トラフグ	○					
	シロザメ						
	アカエイ						
イカ・タコ類	マダコ	○	○				
	イイダコ	○	○				
	テナガダコ	○	○				
	コウイカ	○	○				
エビ・カニ類	スルメイカ						
	ガザミ	○			○		
	シャコ	○					
	クルマエビ	○			○		
貝類	アカエビ	○					
	キシエビ						
	ヨシエビ	○					
	アサリ	○	○		○	◎	産卵場・生育場が干潟に依存する。
棘皮類	アカガイ	○					
	サルボウ	○			○		
	タイラギ	○					
	トリガイ	○					
	バカガイ	○			○		
	ハマグリ	○			○		
	マテガイ	○					
	サザエ	○			○		
棘皮類	マナマコ	○	○				

①主な魚介類：以下の文献により抽出した。

「瀬戸内海の生物資源と環境（岡市ら，1996）」

「瀬戸内海のさかな（瀬戸内海水産開発協議会編，1997）」

「日本全国沿岸海洋誌（日本全国沿岸海洋研究部会編，1985）」

②周年定住種：以下の文献を参考に判断した。

沿岸至近域における海洋生物の生態知見（魚類・イカタコ類編）（（財）海洋生物研究所，1991）

沿岸至近域における海洋生物の生態知見（貝類・甲殻類・ウニ類編）（（財）海洋生物研究所，1991）

新版魚類学（下）改訂版（落合明・田中克，1998）

水産生物の生活史と生態（（社）日本水産資源保護協会，1985）

水産生物の生活史と生態（続）（（社）日本水産資源保護協会，1986）

水生生物生態資料（（社）日本水産資源保護協会，1981）

水生生物生態資料（続）（（社）日本水産資源保護協会，1983）

③漁獲量上位種：②の魚種のうち、「瀬戸内海及び太平洋南区における漁業動向（平成7年～16年）中国四国農政局統計部」の漁獲量が50位以内の種。

④保護水面対象種：水産資源保護法に基づく保護水面として指定された水域がある場合、その対象魚種。

⑤産卵場・生育場が藻場・干潟・サンゴ礁の特定域に該当する種

魚介類の生態特性により、産卵場あるいは生育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟、サンゴ礁のいずれかを利用するものに○を付した。岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。

⑥選定結果：②～⑤全ての項目に該当する魚介類。